

【別紙様式 1】

令和 7 年度外部連携組織活動報告書（その 1）

学校名	記載責任者 職・氏名
岡山県立高梁高等学校	校 長 ・ 鳥 越 信 行

1 外部連携組織の役割

次の項目について協議を行うとともに、協力を求める ・ 学校の存在意義や社会的役割に関する事項 ・ 学校経営方針や各校における 3 つの方針（スクール・ポリシー）の策定に関する事項 ・ 学校運営の充実にに関する事項 ・ 各学科や学校全体における教育活動の充実にに関する事項 ・ その他各校が必要とする事項
--

2 外部連携組織の構成機関等

	機関等	個人	機関等の名称	代表者の 職・氏名
1	○		P T A	P T A 会長・五百蔵 実
2		○		市議会議長・伊藤 泰樹
3	○		吉備国際大学	学長・中瀬 克己
4		○		同窓会代表・菅田 吉昭
5		○		会社役員・平井 聡一郎
6	○		高梁市教育委員会	参与・福原 洋子
7	○		高梁市	学校連携コーディネーター・横山 弘毅

3 協議等の実施状況（下記「4 協議等の意見等」の内容に係る協議等の実施日時等）

回	日時	人数	主な議事、活動	実施形態
1	令和 7 年 5 月 26 日 15 : 00 ～ 17 : 00	7	学校運営の基本方針について、D X ハイスクール事業について	会議
2	令和 7 年 11 月中旬予定 15 : 00 ～ 17 : 00			
3	令和 8 年 2 月下旬予定 15 : 00 ～ 17 : 00			

4 協議等の意見等

○ R7年度の学校経営計画ならびに具体的学校経営目標・計画について

【学校の現状と学校経営計画について】

部活動、各種検定、課外活動など、学校で成果の上がっている内容を委員の皆様に紹介し、その後大きく5分野にわたる本年度の学校経営計画について校長から説明した。委員の方から、学校運営協議会に生徒がオブザーバー等で参加することを検討してみてもいいかという意見をいただいた。

【具体的な学校経営目標・計画について】

各項目について、以下の意見をいただいた。

1 組織的な学力向上施策について

・通常の各授業に対する生徒の評価がどうなっているかを把握し、生徒が思考する授業、そしてその考えを表現する授業になっているかという視点で校内授業参観を進め、これからの時代を生き抜く資質・能力を育成してほしい。

2 体系的・系統的なキャリア探究プログラムの充実について

・生成AIの活用の現状について、校務での使用レベルの段階にあるのか、生徒の使用を積極的に進めていく段階にあるのか。これからの社会に必須となるツールなので、現状を把握したうえで、生徒が効果的に活用できる段階を目指してほしい。

・高梁高校ならではの「キャリア探究プログラム」でどのような活動をしているかを、中学生やその保護者に向けて積極的に広報してほしい。

3 グローバル教育の充実について

・特記事項なし

4 主体性・個性を伸ばす指導の充実について

・資格試験について英検取得率の向上、さらにはITパスポートの取得を目標項目として検討してほしい。

・ボランティア等、高校生の活躍の場を高梁市で調整しつつあり、公民館や福祉施設、市民センターなどでの活動の募集が、登録者本人に直接届くような仕組みを検討している。近隣の吉備国際大学にもボランティアセンターがあるので、外部機関との連携を進めた活動を増やしてほしい。

・指導の充実を実現するための環境整備について、個別指導に必要な空間を整備するとともに、新しい時代にあわせて配信等の活用が可能なスタジオ的機能を備えた空間を整備してほしい。

5 学校からの情報発信の進化について

・生徒自身がブログを作成し情報発信をしていくことで、ホームページ閲覧数も増加するし、保護者を含めて関係者からの高梁高校の認知が高まる。そのためには、生徒からブログ記事を積極的に募集するといった取り組みが考えられるのではないかと。

・広報活動のターゲット対象を誰に設定するか、中学生なのか保護者なのか。誰が閲覧しているかのデータを取得することは難しいかもしれないが、ターゲットを明確にした広報活動を展開してほしい。

【その他】

・多くの生徒が進学、就職で高梁の地から離れてしまう現状があるが、進学した後にどの程度Ｕターンしているかの調査ができないだろうか。

○ R7年度DXハイスクール事業について

昨年度、グループによる協働的な学びやプレゼンテーションを行いやすい教室の整備、動画編集やデータ分析に耐えうる高スペックPCの導入をハード面の整備として進めた。ソフト面としては、データサイエンス基盤となる基礎知識の習得、そしてデータから裏付けられた事実を根拠に結論を表現する力の育成を目指して、身近なデータの分析手法やデータリテラシーを学ぶコンテンツを総合的な探究の時間に導入した。今年度は、実データの収集・分析を進め、科学的根拠に基づいた探究活動を充実させるとともに、生成AIの活用を進めていくことを考えている。

・生成AIに関しては、どのような指示（プロンプト）を出すかが重要で、上手く活用すればPBL学習のレベルが向上するため、今後とも研究を進めてほしいという意見をいただいた。